



Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-3463
2005 年 10 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品および本書は著作権法によって保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



051220@13215



目次

Sun Java System Web Server リリースノート	5
機能および拡張機能	6
Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート	6
J2SE プラットフォーム 1.4.2_04 JDK/JRE のサポート	7
J2SE プラットフォーム 1.5.0 JDK/JRE のサポート	7
WebDAV のサポート	7
NSAPI フィルタのサポート	7
HTTP 圧縮のサポート	8
検索エンジンのサポート	8
強化されたセキュリティー	9
JNDI のサポート	9
JDBC のサポート	9
Sun ONE Studio 5 のサポート	9
Active Server Pages のサポート	11
PHP 互換性	11
NSS 3.10.1.0 および NSPR 4.5.2 のサポート	12
強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート	12
サポートされるプラットフォーム	12
必要なパッチ	14
Solaris のパッチ	14
HP-UX のパッチ	14
AIX のパッチ	15
インストール、アップグレード、移行に関する注意事項	16
インストール	16
アップグレード	16
移行	17
製品マニュアル	17

障害をお持ちのユーザー向けのユーザー補助機能	19
解決済みの問題	19
6.1 SP5 において解決済みの問題	19
6.1 SP4 において解決済みの問題	21
6.1 SP3 において解決済みの問題	23
6.1 SP2 において解決済みの問題	25
6.1 SP1 において解決済みの問題	36
6.1 において解決済みの問題	38
既知の問題	39
一般	39
管理	40
コア	43
マニュアルとオンラインヘルプ	44
インストール	50
移行	50
サンプル	51
検索	52
セキュリティ	53
ツール	54
Web コンテナ	55
WebDAV	55
お問い合わせ先	56
ご意見、ご要望の送付先	56
その他の Sun のリソース	57

Sun Java System Web Server リリース ノート

Sun Java™ System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 (以後 Sun Java System Web Server 6.1 SP5) では、セキュリティー脆弱性に対する重要な修正が行われています。Sun Java System Web Server のすべてのユーザー、特に Secure Sockets Layer (SSL) バージョン 3 または Transport Security Layer (TLS) を使用したサイトのユーザーは、このサービスパックをインストールすることを強くお勧めします。このリリースでは、HP-UX および AIX プラットフォームに対するサポートも提供されています。

このリリースノートには、機能および拡張機能、既知の制限と問題、技術情報、その他の情報の入手先についてなど、Sun Java System Web Server 6.1 SP4 がリリースされた時点で利用できる重要な情報が含まれています。ソフトウェアのインストールおよび構成の前にリリースノートを確認し、その後も定期的に最新の情報を参照してください。

Sun Java System Web Server 6.1 のマニュアル全文は
<http://docs.sun.com/db/prod/s1webserv#hic> から入手できます。

注 - 以前の Sun Java Enterprise System 2005Q1 コレクションの下に発行された既存の Sun Java System Web Server 6.1 2005Q1 SP4 のマニュアルは Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 および Sun Java Enterprise System 2005Q4 にも有効です。このマニュアルは http://docs.sun.com/coll/WebServer_05q1 から入手できます。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- 6 ページの「機能および拡張機能」
- 12 ページの「サポートされるプラットフォーム」
- 14 ページの「必要なパッチ」
- 16 ページの「インストール、アップグレード、移行に関する注意事項」
- 17 ページの「製品マニュアル」
- 19 ページの「解決済みの問題」
- 39 ページの「既知の問題」
- 56 ページの「お問い合わせ先」

- 57 ページの「その他の Sun のリソース」

機能および拡張機能

Sun Java System Web Server では、以下の機能および拡張機能が提供されています。

- 6 ページの「Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート」
- 7 ページの「J2SE プラットフォーム 1.4.2_04 JDK/JRE のサポート」
- 7 ページの「J2SE プラットフォーム 1.5.0 JDK/JRE のサポート」
- 7 ページの「WebDAV のサポート」
- 7 ページの「NSAPI フィルタのサポート」
- 8 ページの「HTTP 圧縮のサポート」
- 8 ページの「検索エンジンのサポート」
- 9 ページの「強化されたセキュリティ」
- 9 ページの「JNDI のサポート」
- 9 ページの「JDBC のサポート」
- 9 ページの「Sun ONE Studio 5 のサポート」
- 11 ページの「Active Server Pages のサポート」
- 11 ページの「PHP 互換性」
- 12 ページの「NSS 3.10.1.0 および NSPR 4.5.2 のサポート」
- 12 ページの「強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート」

Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート

Sun Java System Web Server では、Java™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) 準拠の Java™ Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 仕様が実装されています。J2EE 準拠の Web コンテナにより、Java™ テクノロジ標準準拠の Web アプリケーションの設計と配備に必要な柔軟性と信頼性が提供されます。Web アプリケーションは、仮想サーバーごとに配備できます。

これらのテクノロジーについては、次のリソースを参照してください。

- Java Servlets <http://java.sun.com/products/servlet/index.html>
- JavaServer Pages <http://java.sun.com/products/jsp/index.html>

サーブレットおよび JSP の開発については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

J2SE プラットフォーム 1.4.2_04 JDK/JRE のサポート

Sun Java System Web Server は Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) 1.4.2_04-b05 をサポートしています (32 ビットのみ、64 ビットはサポートしていません)。J2SE ソフトウェアは Web Server に付属しており、選択すれば、Web Server のインストール中にインストールされます。Web Server のインストール後に、独自の JDK をインストールすることもできます。管理サーバーの使用を計画している場合は、JDK をインストールする必要があります。

HP-UX プラットフォーム

HP-UX プラットフォーム用の Sun Java System Web Server 6.1 には、JDK 1.4.1 が含まれています。

J2SE プラットフォーム 1.5.0 JDK/JRE のサポート

Sun Java System Web Server は、Solaris、Linux、および Microsoft Windows プラットフォームで、1.5.0_01-b08 で認証された Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) 1.5.0 をサポートします。

WebDAV のサポート

Sun Java System Web Server は、WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning) プロトコルをサポートしているため、以下の機能を利用した協調的 Web パブリッシングが可能です。

- RFC 2518 準拠による RFC 2518 クライアントとの相互運用性
- Web パブリッシングのセキュリティーおよびアクセス制御
- ファイルシステムベースの WebDAV コレクションおよびリソースに対する発行の基本操作

WebDAV は、コンテンツのメタデータ、ネームスペース管理、および上書き保護を統合的にサポートします。これらのテクノロジーは、WebDAV をサポートする多くのオーサリングツールに組み込まれ、協同作業環境のための理想的な開発プラットフォームを提供します。

NSAPI フィルタのサポート

Sun Java System Web Server のリリース 6.1 では、NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) フィルタをサポートするために、NSAPI が拡張されています。

フィルタを使用すると、HTTP 要求および応答ストリームをカスタム処理できます。つまり、ある機能に対して提示されたコンテンツ、またはある機能によって生成されたコンテンツを横取りしたあと、それらを変更することが可能になります。たとえば、あるプラグインで、別の SAF (Server Application Function) によって生成された XML ページを横取りする NSAPI フィルタをインストールして、その XML ページをクライアントにとって適切な HTML、XHTML または WAP ページに変換することができます。あるいは、NSAPI フィルタが、クライアントから受信したデータを、別のプラグインに提示する前に解凍することもできます。

詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 NSAPI Programmer's Guide』を参照してください。

HTTP 圧縮のサポート

Sun Java System Web Server は、コンテンツ圧縮をサポートしています。この機能により、コンテンツ量に合わせてハードウェアコストを増加させることなく、クライアントへの配信スピードを速め、より多くのコンテンツを提供できるようになります。コンテンツ圧縮により、コンテンツのダウンロード時間が減少します。これは、ダイヤルアップ接続やトラフィックの多い接続を使用するユーザーにとって非常に重要な利点です。

詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 管理者ガイド』を参照してください。

検索エンジンのサポート

Sun Java System Web Server は、フルテキストの検索インデックス作成と検索を提供する Java ベースの検索エンジンをサポートしています。検索機能を使用すると、ユーザーはサーバー上のドキュメントを検索して、結果を Web ページに表示できます。サーバー管理者は、ユーザーが検索対象とするドキュメントのインデックスを作成し、固有のニーズに合わせて検索インタフェースをカスタマイズできます。

エンドユーザーが検索機能にアクセスするために使用できるデフォルトの URL は、次のとおりです。

```
http://<server-instance >:port number/search
```

例：

```
http://plaza:8080/search
```

エンドユーザーがこの URL を呼び出すと、Java Web アプリケーションである「検索」ページが開きます。

キーワード、およびオプションのクエリ演算子を含む、基本および高度な検索を実行する詳細な手順については、検索エンジンに付属のオンラインヘルプを参照してください。これらの情報にアクセスするには、「検索」ページの「ヘルプ」リンクをクリックしてください。詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 管理者ガイド』を参照してください。

強化されたセキュリティー

Sun Java System Web Server では、フラットファイル認証を使用してアクセスを制限できます。Sun Java System Web Server のリリース 6.1 では、Java セキュリティーマネージャーがサポートされています。セキュリティーマネージャーは、製品のインストール時には、デフォルトで無効になっています。これは、ある種のアプリケーションでは、パフォーマンスが際立って向上する可能性があるためです。セキュリティーマネージャーを有効にすると、J2EE Web アプリケーションに与える権限を制限することにより、セキュリティーを向上させることができます。セキュリティーマネージャーを有効にするには、`server.xml` ファイル内のエントリのコメントを外します。

```
<JVMOPTIONS>-Djava.security.manager</JVMOPTIONS>
```

```
<JVMOPTIONS>-Djava.security.policy=instance_dir  
/config/server.policy</JVMOPTIONS>
```

ここで、`instance_dir` は、このサーバーインスタンスのインストールディレクトリへのパスです。

`server.xml` の詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

JNDI のサポート

Sun Java System Web Server は、JNDI (Java Naming and Directory Interface) をサポートします。JNDI により、多種多様なエンタープライズのネーミングサービスおよびディレクトリサービスへのシームレスな接続が可能になります。

JDBC のサポート

Sun Java System Web Server は、シームレスな JDBC (Java™ DataBase Connectivity) を提供し、業界標準の JDBC ドライバからカスタマイズされた JDBC ドライバまで幅広くサポートしています。

Sun ONE Studio 5 のサポート

Sun Java System Web Server は、Sun™ ONE Studio 5, Standard Edition をサポートしています。Sun ONE Studio テクノロジは、Java テクノロジ開発者のために Sun が提供する、強力で拡張可能な統合開発環境 (IDE) です。Sun ONE Studio 5 は NetBeans ソフトウェアをベースにしており、Sun ONE プラットフォームと統合されています。Sun Java System Web Server 6.1 以上でも NetBeans 3.5 および 3.5.1 をサポートしています。

Sun ONE Studio のサポートは、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 でサポートされるすべてのプラットフォームで利用できます。Web Server 用のプラグインは、以下の方法で入手できます。

- Sun Java System Web Server メディアキットの付属 CD
- Sun ONE Studio の AutoUpdate 機能の使用
- <http://www.sun.com/software/download/products/3f567f91.html> の Sun Java System Web Server のダウンロードセンター

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 の Sun ONE Studio 5 プラグインは、ローカルの Web Server でのみ動作します (つまり、IDE と Web Server は同じマシン上に配備)。

Sun Java System Web Server の Sun ONE Studio 5 プラグインの動作は、Sun ONE Application Server 7 の場合と同じです。Sun ONE Studio 5 の Web アプリケーション機能の使用については、<http://developers.sun.com/prodtech/javatools/jsenterprise/learning/tutorials/cdshop.pdf> のチュートリアルを参照してください。

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 インスタンスをデフォルトに設定してから、チュートリアルで説明されている操作を実行してください。

<http://usersguide.netbeans.org/tutorials/webapps/index.html> にある NetBeans のチュートリアルも参照してください。

Sun ONE Studio 5 の詳細は、<http://www.sun.com/software/sundev/jde/> を参照してください。

開発者向けの追加リソースについては、このリリースノートの [57 ページ](#) の「[他の Sun のリソース](#)」を参照してください。

デバッグのための Sun ONE Studio 5 の使用

デバッグモードで起動したりリモート Web Server に IDE を手動で接続する場合、Sun ONE Studio 5 を「リモートデバッグ」用に使用できます。手順は、次のとおりです。

1. Sun Java System Web Server 管理インターフェースを使用して、デバッグモードでサーバーインスタンスを再起動します (「Manage Servers」>「JVM General」>「Debug Enabled」)。
2. JPDA ポート番号を控えておきます。
3. IDE を起動します。
4. 「デバッグ」>「起動」を選択します。
5. `dt_socket` メソッドを選択してから、リモートマシン名および JPDA ポート番号を入力します。この時点で、配備されたアプリケーションのサーブレットソースコード上で、IDE に作成されたブレークポイントがアクティブになります。

Active Server Pages のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 は、Sun ONE Active Server Pages バージョン 4.0.1 (以前の Sun™ Chili!Soft ASP) および 4.0.2 を通じて Active Server Pages 3.0 仕様をサポートします。Sun ONE Active Server Pages は、Sun Java System Web Server にセキュリティー保護された企業レベルの Active Server Pages エンジンを追加します。

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 は、次のプラットフォームで Sun ONE Active Server Pages 4.0.1 および 4.0.2 をサポートします。

- Solaris™ (SPARC®) 8 および 9
- Microsoft Windows 2000 および XP
- Red Hat Advanced Server 2.1

Sun Java System Web Server にインストールする場合は、Sun ONE Active Server Pages のライセンスは必要ありません。Sun ONE Active Server Pages インストーラは、Sun Java System Web Server メディアキットを購入した場合は付属 CD に含まれています。http://www.sun.com/software/chilisoft/index.html からダウンロードすることもできます。以下の点に注意してください。

- Sun ONE Active Server Pages プラグインを使用するには、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 のインストール後にさらに約 50M バイトのディスク容量が必要になります。
- インストールを始める前に、root としてログインしていることを確認してください。

Sun ONE Active Server Pages の詳細については、上記の URL をご覧ください。

PHP 互換性

PHP は、PHP グループ (http://www.php.net) から入手可能な人気の高いページスクリプト言語であり、サポート対象の 3 つの API (CGI, NSAPI, および FastCGI) のいずれかを使用することで、Sun Java System Web Server で使用できます。PHP グループは、サポート対象の 3 つの API のいずれかを使用して PHP ソフトウェアを設定する方法を、Web サイトで詳細に説明しています。

CGI API は、使用できる中ではもっとも安定したインタフェースですが、CGI に固有のパフォーマンスの制限を受けます。

NSAPI は、Sun Java System Web Server のネイティブ API を利用し、Web Server のメモリー内で PHP ソフトウェアを実行します。この設定により最高のパフォーマンスが提供されますが、スレッドセーフでない PHP モジュールが使用されるとサーバーがクラッシュする危険があります。

FastCGI インタフェースは、PHP ソフトウェアが要求を処理した後も、Web Server のメモリー外で継続して実行できるようにすることにより、パフォーマンスと安定性の両方ある程度実現します。不安定な PHP モジュールが使用されても、Web Server がクラッシュすることはありません。このため、Sun は、PHP ソフトウェアでは FastCGI インタフェースを使用することをお勧めします。

FastCGI インタフェース

は、<http://www.sun.com/download/products.xml?remap=3f567f91> から入手可能な FastCGI アドオンをインストールすると、Web Server でサポートされます。

注 - PHP ソフトウェアは、FastCGI プロセスとして実行した場合、PHP プロセスのライフサイクルを制御するために 2 つの環境変数を使用します。

PHP_FCGI_CHILDREN は、要求に対する応答として作成される PHP プロセスの数を決定します。PHP_FCGI_MAX_REQUESTS は、PHP プロセス自体を終了して新しい PHP プロセスに置き換えられるまでに応答できる要求の数を決定します。Sun は、PHP_FCGI_CHILDREN の使用は推奨せず、代わりに FastCGI アドオンの設定パラメータ min-proc で PHP プロセスの最小数を制御することをお勧めします。

NSS 3.10.1.0 および NSPR 4.5.2 のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 の NSS のサポートは、3.9.5 (バージョン 6.1 SP4 の) から 3.10.1.0 にアップグレードされました。NSS は、セキュリティー対応サーバーアプリケーションのクロスプラットフォーム開発をサポートするために設計された一連のライブラリです。Sun Java System Web Server 6.1 SP5 は、NSPR 4.5.2 もサポートしています。

強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 は、Web Server での SSL のパフォーマンスを向上させる暗号化アクセラレータボードである Sun™ Crypto Accelerator 4000 のハードウェアアクセラレータをサポートしています。

サポートされるプラットフォーム

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 は、Solaris、HP-UX、AIX、Linux、および Microsoft Windows プラットフォームにインストールできます。次の表は、プラットフォームのサポートについてまとめたものです。インストール要件の詳細は、このリリースノートの 14 ページの「必要なパッチ」および『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 Installation and Migration Guide』の第 2 章を参照してください。

注 - HP-UX 11i は、PA-RISC プラットフォーム上でのみサポートされます。

表 1 Sun Java System Web Server 6.1 SP5 でサポートされるプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	推奨するメモリー	推奨するディスク容量
IBM	PowerPC	IBM AIX 5.1, 5.2, 5.3*	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Hewlett-Packard	PA-RISC 2.0	HP-UX 11i	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Microsoft	Intel x86	Windows 2000 Server SP4 Windows XP Windows Server 2003, Enterprise Edition	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	UltraSPARC**	Solaris 8, 9, 10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	x86	Solaris 9, 10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	x86 および SPARC	Trusted Solaris 8 (Pro Serve のみ)***	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Linux****	RedHat Intel x86	Red Hat Linux Advanced Server 2.1 <ul style="list-style-type: none"> ■ Kernel 2.4.9-e.3smp ■ glibc-2.2.4-26 ■ ncurses-4-5.0-5.i386.rpm libncurses5.so から libncurses4.so に対してシンボリックリンクを作成することもできますが、ncurses4-5.0-5.i386.rpm のインストールが推奨されています。 Red Hat Enterprise Linux ES 3.0	64M バイト	192M バイト	256M バイト

* AIX 5.1 は推奨されません。

** iPlanet Web Server 6.0 では、古い SPARC CPU はサポートされません。Sun Java System Web Server 6.1 では引き続き UltraSPARC アーキテクチャーがサポートされます。

*** Sun または iForce によるパートナープロフェッショナルサービスを強くお勧めします。

*** 次の Linux オペレーティングシステムのサポートは、現在推奨されないものとして示されていますが、Sun Java System Web Server 6.1 製品の次のリリースでは、削除される予定です。

- Sun Linux 5.0

お使いの Web Server をサポートされるオペレーティングシステムへ変更または移行するために必要な対応を行ってください。

必要なパッチ

適用可能な最新のパッチを使用して、オペレーティングシステムをアップデートすることをお勧めします。必要なパッチをプラットフォーム別に示します。

- 14 ページの「Solaris のパッチ」
- 14 ページの「HP-UX のパッチ」
- 15 ページの「AIX のパッチ」

Solaris のパッチ

Solaris ユーザーは、以下のサイトの「推奨 & セキュリティーパッチ」セクションで入手可能な、Sun の推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。
<http://sunsolve.sun.com>

Solaris 8 (SPARC)

- Solaris 8 Update 7
- Sun 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ。

Solaris 9 (SPARC および x86)

- Solaris 9 Update 4 以降。
- Sun 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ。

HP-UX のパッチ

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 を使用するためには、以下のパッチが必要です。

HP-UX 11i

HP-UX 11i は、PA-RISC プラットフォーム上でのみサポートされます。

- HP-UX 11i オペレーティング環境コンポーネント — B.11.11.0203

- 11i に付属する必要なパッチ (2003 年 6 月) — B.11.11.0306.1
- HP-UX 11i 用 Gold Base パッチ (2003 年 6 月) — B.11.11.0306.4
- HP-UX 11i 用 Gold Application パッチ (2003 年 6 月) — B.11.11.0306.4
- Pthread の拡張および修正 — PHCO_29109
- Pthread.h の修正および新しい拡張 — PHCO_30544
- libc man ページ累積パッチ — PHCO_29328
- libc 累積パッチ — PHCO_29495
- Java Out-of-Box — JAVAOOB, 1.0.0.02

Java Out-of-Box ツールは、必要なカーネル調整可能パラメータを構成するのに使用されます。カーネルの値を変更する場合には、このツールを使用することをお勧めします。必要に応じて、次に示す調整可能パラメータが右側の値以上になるように変更してください。

- nkthreads — 3635
- maxfiles — 60
- maxfiles_lim — 1024
- max_thread_proc — 512
- maxswapchunks — 2048
- nfile — 4136
- ncallout — 3651
- nproc — 2068



注意 - カーネル調整可能パラメータの変更は、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。変更内容を完全に理解していない場合は変更しないでください。

AIX のパッチ

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 を使用するためには、以下のパッチが必要です。

AIX 5.1

- 基本レベルの OS — AIX 5.1
- メンテナンスレベルのパッチ — 5100-05
- JDK APAR — IY46667 は必須

AIX 5.2

- 基本レベルの OS — AIX 5.2
- メンテナンスレベルのパッチ — 5200-02
- JDK APAR — IY46668 は必須

Web Server 上に Java Web アプリケーションが配置されている場合、IBM JDK のマニュアルに従って、サーバーを起動する前に以下のように環境変数を設定する必要があります。

- export AIXTHREAD_SCOPE=S
- export AIXTHREAD_MUTEX_DEBUG=OFF
- export AIXTHREAD_RWLOCK_DEBUG=OFF
- export AIXTHREAD_COND_DEBUG=OFF

上記は、Web サーバーの起動スクリプトに直接追加できます。

AIX 5.3

- 基本レベルの OS — AIX 5.3
- メンテナンスレベルのパッチ — 5300-01

インストール、アップグレード、移行に関する注意事項

この節では、Sun Java System Web Server のインストール、アップグレード、および移行に関する注意事項を示します。これらの項目の詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 Installation and Migration Guide』の情報を参照してください。ガイド内で Sun Java System Web Server 6.1 について説明されている内容は、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 にも適用されます。Sun Java System Web Server のこのリリースの既知の問題については、このリリースノートの [39 ページ](#)の「既知の問題」を参照してください

インストール

- **Web Server** を、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールしないでください。

Web Server は、たとえば Program Files のように、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールされている場合には起動しないので注意してください。これについてのエラーメッセージは、インストール中には表示されませんが、インストール後にサーバーは起動しません。

- **Web Server** は **compat-libstdc++** がないと、**RHLAS 3.0** にセットアップできません。

アップグレード

既存の Sun Java System Web Server 上に Sun Java System Web Server 6.1 SP5 をインストールする場合、インストーラが自動的にアップグレードを検出して実行します。

Sun Java Web Server 6.1 SP1 がすでにインストールされている場合は、6.1 SP5 のインストーラに 6.1 SP1 がインストールされている場所を示してからアップグレードしてください。

Sun Java Enterprise System 1 がシステムにインストールされていて、Sun Java Enterprise System 1 の一部である Sun Java System Web Server 6.1 を Sun Java System Web Server 6.1 SP5 にアップグレードする場合の手順は、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』を参照してください。

移行

iPlanet™ Web Server 4.1 より低いバージョンから Sun Java System Web Server 6.1 SP5 への直接的な移行はサポートされていません。最初に、旧バージョンのサーバーを iPlanet Web Server 4.1 に移行し、それから Sun Java System Web Server 6.1 SP5 に移行します。

移行についての詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP4 Installation and Migration Guide』を参照してください。このガイドには、バージョン 4.1 から 6.1、およびバージョン 6.0 から 6.1 への移行に関する情報があります。また、このガイドで Sun Java System Web Server 6.1 について説明されている内容は、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 にも適用されます。

製品マニュアル

Sun Java System Web Server には、製品マニュアルの完全なセットがあり、<http://docs.sun.com/db/prod/slwebsrv#hic> で参照できます。

Sun Java System Web Server のマニュアルは、PDF および HTML 形式のオンラインファイルとして利用できます。このマニュアルで Sun Java System Web Server 6.1 について説明されている内容は、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 にも適用されます。次の表に、各マニュアルで説明されている作業と概念の一覧を示します。

表 2 Sun Java System Web Server マニュアルロードマップ

参照事項	参照先
ソフトウェアおよびマニュアルについての最新情報	『リリースノート』
Sun Java System Web Server 入門。サーバーの基本と機能を紹介する実習を含む (はじめて使用するユーザーに推奨)	『Getting Started Guide』

表 2 Sun Java System Web Server マニュアルロードマップ (続き)

参照事項	参照先
<p>以下のインストールおよび移行作業の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Java System Web Server とその多様なコンポーネントのインストール、サポートするプラットフォーム、および環境 ■ 以前のバージョンの Sun Java System Web Server からの移行 	<p>『インストールおよび移行ガイド』</p> <p>このガイドは次に示す Web Server のインストール場所からも参照できます。 server_root/manual/https/ig/</p>
<p>以下の管理作業の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理およびコマンド行インタフェースの使用 ■ サーバー環境の設定 ■ サーバーインスタンスの使用 ■ サーバーアクティビティの監視およびログ ■ サーバー保護のための証明書および公開鍵暗号の使用 ■ サーバー保護のためのアクセス制御の設定 ■ Java™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™ プラットフォーム) のセキュリティ機能の使用 ■ アプリケーションの配備 ■ 仮想サーバーの管理 ■ パフォーマンスニーズに合わせたサーバー作業負荷の定義およびシステムのサイズ決定 ■ サーバードキュメントのコンテンツと属性の検索、およびテキスト検索インタフェースの作成 ■ コンテンツ圧縮のためのサーバー設定 ■ WebDAV を使用した Web 発行およびコンテンツオーサリングのためのサーバー設定 	<p>『管理者ガイド』</p> <p>このガイドは次に示す Web Server インストール場所からも参照できます。 server_root/manual/https/ag/</p>
<p>以下を実行するためのプログラミングテクノロジーおよび API の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Java System Web Server の拡張および変更 ■ クライアントの要求に応じたコンテンツの動的生成 ■ サーバーのコンテンツの変更 	<p>『Programmer's Guide』</p>
<p>カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) プラグインの作成</p>	<p>『NSAPI Programmer's Guide』</p>

表 2 Sun Java System Web Server マニュアルロードマップ (続き)

参照事項	参照先
Sun Java System Web Server におけるサーブレットおよび JavaServer Pages™ (JSP™) テクノロジーの実装	『 <i>Programmer's Guide to Web Applications</i> 』
設定ファイルの編集	『 <i>Administrator's Configuration File Reference</i> 』
パフォーマンス最適化のための Sun Java System Web Server の調整	『 <i>Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide</i> 』

障害をお持ちのユーザー向けのユーザー補助機能

このメディアが出版後にリリースされたユーザー補助機能を入手する場合は、請求に応じて Sun から提供される 508 条に関する製品評価資料を参考にし、使いやすいソリューションの配備に最適なバージョンを調べてください。最新バージョンのアプリケーション

は、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。ユーザー補助機能に対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

解決済みの問題

この節では、次のリリースで修正された最も重要な問題を一覧表示します。

- 19 ページの「6.1 SP5 において解決済みの問題」
- 21 ページの「6.1 SP4 において解決済みの問題」
- 23 ページの「6.1 SP3 において解決済みの問題」
- 25 ページの「6.1 SP2 において解決済みの問題」
- 36 ページの「6.1 SP1 において解決済みの問題」
- 38 ページの「6.1 において解決済みの問題」

6.1 SP5 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 において解決された問題を一覧表示します。

表 3 Sun Java System Web Server 6.1 SP5 において解決された問題

バグ ID	説明
6234284	管理パスワードに ;, \$, &, ^, *, (.), , <, >, ', ', ", \ などのシェルメタ文字が含まれる場合に、JES3 Web Server のインストールが失敗し、コアダンプが出力される。
6232465	HPUX Web Server ビルドに -N リンカーオプションを含める。
6171389	キーブアライブを使用すると、最初の HTTP 要求に対してのみ入力フィルタが呼び出される。TCP 接続のその後のすべての要求は、フィルタによって処理されない。
6195820	load-on-startup サブレットにグローバルリソースを使用できない。
5042600	6.0 SP7 Web Server インスタンスを 6.1 SP2 に移行できない。
6244615	Web Server の移行で、RootCerts が正しく更新されない。
6219618	JES Web Server 6.1 SP2 は、検索コレクション作成のための PDFバージョン 1.5 (Acrobat 6.x) ドキュメントの索引化に失敗する。
6239342	デフォルトのエラーページでのクロスサイトスクリプトの脆弱性。
4879994	SSL: 要求が新しい SSL ハンドシェイクを起動すると、8k を超えるデータが失われる。 追加情報:デフォルトで、Web Server は最大 1M バイトのサイズのファイルをアップロードできます (クライアント証明書認証がオプションの場合)。1M バイトより大きいファイルをアップロードするには、magnus.conf ファイルの SSLClientAuthDataLimit の制限値を増やします。ただし、非常に大きなファイルを同時にアップロードすると、Web Server が大量のメモリーを消費します。メモリーの使用量を最小限に抑えるには、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 認証が不要な場合は、認証をオフにします。 ■ 認証が必要な場合は、obj.conf に require=1 を設定して、必須にします。 <pre>PathCheck fn="get-client-cert" dorequest="1" require="1"</pre>
6229472	.htaccess Require 指令が壊れている。
6170938	ユーザードキュメントディレクトリに対して、acceptlanguage が機能しない。
6180991	2G バイトより大きいファイルに対して、内部デーモンログのローテーションが機能しない。
6254121	.htaccess は対応するファイルがないリソースの保護に失敗し、その際メッセージは表示されない。
6185904	新しい NSS エラーコードが正しく処理されていない (未知のエラー - 8048)。

表 3 Sun Java System Web Server 6.1 SP5 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6262885	<p>HTTPS から HTTP に切り替えると、新しいセッションが生成される。</p> <p>追加情報: Web アプリケーションの sun-web.xml で、cookie-properties の下の Web アプリケーションのセッション Cookie の isSecure 属性を true または false に設定します。デフォルト値は true です。次の例では、パラメータ値を false に設定して、Web アプリケーションの isSecure を false に設定しています。sun-web.xml は次のようになります。</p> <pre><session-config> <cookie-properties> <property name="isSecure" value="false"/> </cookie-properties> </session-config></pre>
6222728	<p>Microsoft Windows 2000 プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP2/SP3 で SNMP サービスが失敗する。</p>
6273472	<p>Web Server 6.1 SP4 アンインストールスクリプトでエラーメッセージ「ファイルもディレクトリもありません。」が表示される。</p>
6259257	<p>一部の PDF ファイルで、検索エンジンによる索引化が失敗する。</p>
6253489	<p>JSP に入れ子の include が存在すると、ClassCastException がスローされる。</p>
6285847	<p>二重の「Content-Length」ヘッダーがある要求が拒否されない (HRS の脆弱性)。</p> <p>回避策: magnus.conf に StrictHttpHeaders 指令を追加し、値を on に設定します。</p>
6275413	<p>ホームページ SAF の設定が誤っていると、サーバーがクラッシュする。</p>

6.1 SP4 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP4 において解決された問題を一覧表示します。

表 4 Sun Java System Web Server 6.1 SP4 において解決された問題

バグ ID	説明
6021153	<p>必要なパッチ ID 112396-03 が存在しない。</p> <p>以前のリリースノートで「必要」と表示されているパッチ 112396-03 は正しくありません。パッチ 112396-02 しかなく、このパッチは、バグ ID 4498984 (一部の古いバージョンの OS の patchadd コマンドで、*fgrep* が "wordlist too large" で失敗する) を修正します。</p> <p>正しいパッチ番号は 112396-02 です。</p> <p>Solaris ユーザーは、以下のサイトの「推奨 & セキュリティーパッチ」セクションで入手可能な、Sun の推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。 http://sunsolve.sun.com</p> <p><i>Solaris 8 (SPARC)</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 8 Update 7 ■ Sun 推奨の最新セキュリティおよび推奨パッチクラスタ。 <p><i>Solaris 9 (SPARC および x86)</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 9 Update 4 以降。 ■ Sun 推奨の最新セキュリティおよび推奨パッチクラスタ。
6066252	AKI 拡張子付きのクライアントの証明書が原因で SEC_ERROR_UNKNOWN_ISSUER エラーが発生する。
6092498	クライアントの証明書にチェコ語の文字が含まれる場合、SJWS 6.1 は LDAP によるクライアントの証明書の検証に失敗する。
6171311	Jdk1.5 で Web Server を実行するとエラーが頻繁に発生する。
6171784	特定のエラーロギング設定に関連する Web Server のパフォーマンスの問題。
4925875	i18-ko: 韓国語ではアスタリスクを使用した検索を行えない。
6171950	<p>プリコンパイルされた JSP が sun-web.xml 内の reload-interval パラメータの期待どおりに動作しない。</p> <p>回避策: JSP がプリコンパイル済みであり、実行時にコンパイルする必要がないことを示すために、sun-web.xml 内の JSP-config でプロパティ「use-precompiled」を "true" に設定して使用します。</p> <p>sun-web.xml の例</p> <pre><sun-web-app> <session-config> <session-manager/> </session-config> <jsp-config> <property name="use-precompiled" value="true" /> </jsp-config> </sun-web-app></pre>
5048940	SP1 からのアップグレード後に、Admin GUI 内の「Superuser Access Control」ページにアクセスできない。

表 4 Sun Java System Web Server 6.1 SP4 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6177544	プラグインの RPM インストール後に libpassthrough.so が存在しない。
6176231	NSS 3.9.3 ベータ版を使用すると Sun Java System Web Server 6.1 SP4 の管理で証明書 (bin/https/admin/security) コアダンプが削除される。
6173365	Solaris SPARC/x86 対応の Web Server の同じビルド用に複数のパッケージインストーラがある。
5039633	NSS を 3.9 シリーズに更新する。
5063134	J2SE の場所に対して Java ES symlink が使用されない。
6067407	ACL_LDAPSessionFree() の使用の問題。
6173293	Web Server はサーブレットのフィルタが設定されたときにコンテンツタイプを常に text/html に設定する。
6176264	Web Server 6.1 SP4 Solaris x86 が管理 GUI から SSL インスタンスを開始できない。
6180677	JES3 用の Web Server SP4 を JES2 用の Web Server SP2 上にアップグレードできない。
6066139	JDK1.5_beta2 リリースで Web Server を実行している間は、JSTLTCK - 16 のテストが失敗する。
6088595	クラスの作成または編集時に、JDK 1.5.0_beta2 で Admin が例外をスローする。
4904913	I18N 検索: 「?」のワイルドカードを使用して日本語の検索を行うと誤った結果が得られる。

6.1 SP3 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題を一覧表示します。

表 5 Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題

バグ ID	説明
4798461	「転送ファイル」をオフに設定しても、GUI に設定が正しく反映されない。
4904896	I18N 検索: 検索管理 GUI 上の「Default Encoding」のエンコーディングリストのソート。
4905412	GUI がキーファイルデータベース内でユーザーの管理を許可しないように見える。

表 5 Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4991338	Web Server 管理コンソールにすべてのタブが表示されない (Mozilla ブラウザで)。
5001819	Web Server 6.1 の NOVA 検索エンジンがドキュメントのピックアップに失敗することがある。
5014693	Java フィルタ、HTTP 圧縮、および SHTML が連携に失敗する。
5021077	Directory Server を選択せずに「OK」ボタンをクリックすると、 <code>java.lang.NullPointerException</code> がスローされる。
5025617	Web Server の JNDI が、 <code>sun-web.xml</code> からの <code>resource-env-ref</code> をマップする必要がある。
5042676	Client タグコード = 302 で要求フローの問題が発生する。
5056989	セッション ID へのホスト名プレフィックス付加の有効化。 注: Web アプリケーションのセッション ID へのホスト名のプレフィックス付加を有効にする (6.0SPx と同様) には、Web アプリケーションの <code>sun-web.xml</code> で、 <code>manager-properties</code> の下のプロパティ <code>prefixSessionIDWithHostname</code> の値を <code>yes</code> 、 <code>true</code> 、または <code>on</code> のいずれかの値に設定します。 以下の例では、パラメータの値を <code>true</code> に設定することによって、セッション ID へのホスト名プレフィックスの付加を Web アプリケーションに対して有効にしています。 <code>sun-web.xml</code> は次のようになります。 <pre><session-config> <session-manager> <manager-properties> <property name="prefixSessionIDWithHostname" value="true"/> </manager-properties> </session-manager> </session-config></pre>
5057749	Web Server 6.1 SP2: <code>certmap.conf</code> に定義されているプラグインが読み込まれない。
6041356	<code>magnus.conf</code> で <code>AdminLanguage</code> または <code>DefaultLanguage</code> 、あるいはその両方が指定されるときにメモリーリークが発生する。
6057426	ロードバランサプラグイン (以前の Resonate プラグイン) <code>loadbal.so</code> が SPARC Solaris 上で機能しない。 <code>loadbal.so</code> プラグインの場所は次のとおりです。 <code><server_root>/plugins/loadbal.so</code>
5065017	サーブレットセッションデータの問題が発生する。
5048051	RPM インストールの Linux 上でコレクションの作成に失敗する。
5029954	<code>ConnQueueSize/RqThrottle</code> が 0 のときに <code>StackSize</code> が無視される。

表 5 Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4898077	HttpServerAdmin および iWS コンソール間の動作に一貫性がない。
5013100	2500 と 02500 のような 2 つのポートが、server.xml 内に別個のポートとして追加される。
5046634	<p>http ヘッダーおよびプラグインプログラムの 2 バイト文字。</p> <p>応答ヘッダーのエンコーディングを Web アプリケーションレベルで有効にするには、Web アプリケーションの sun-web.xml で、設定パラメータ use-responseCT-for-headers の値を yes、true、または on のいずれかに設定します。以下の例では、パラメータの値を true に設定することによって、Web アプリケーションの応答ヘッダーのエンコーディングを有効にしています。sun-web.xml は次のようになります。</p> <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"/> <property name="use-responseCT-for-headers" value="true" /> <session-config> <session-manager/> </session-config> <jsp-config/> </sun-web-app></pre>

6.1 SP2 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題を一覧表示します。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

バグ ID	説明
4536102	ADM:i18n: Solaris の Netscape で SNMP コミュニティ名が表示されない。
4536194	CGI サブシステムが NSPR ユーザースレッドからの呼び出しをブロックする。
4536739	管理 ACL およびスーパーユーザー AC: 「Allow only from host」が機能しない。
4615933	CORE:SHTML: shtml ファイルに Content-encoding を設定できない。
4629796	ADM:i18n: フランス語のスレッドプール名が、JA-NT では文字化けしてしまう (Internet Explorer および Netscape)。
4651056	「..」で始まるファイルに対して、Web Server が 404 を返す。
4651206	新規の MIME タイプファイルを追加すると、追加したことを GUI から確認する方法がない。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4651207	「Document preference」 Web ページで、エラーの応答に使用するファイルを用意する必要がある。
4652009	アクセスログファイルのカスタマイズが「View Access Log」タブの GUI 表示に反映されない。
4657465	Cookie のエンコーディングを無効にする必要がある。 デフォルトで Sun Java System Web Server の URL では、Cookie をクライアントに送信する前にエンコードします。Cookie をエンコードしないようにするには、以下のコードを sun-web.xml に追加します。 <pre><property name="encodeCookies" value="false"/></pre> 上の例の場合、<sun-web-app> タグの下に直接行を挿入します。他のタグ内に埋め込まないでください。
4664945	URL 転送の設定で内部エラー。
4666409	ErrorResponse CGI ファイルの名前の消去。
4676934	dist-admin: Web Server 6.0 SP2 で、デフォルト ACI がオーバーライドされる。
4676946	仮想サーバーの設定形式を検証しない。
4676950	URL 転送の設定で http:// を削除すると内部エラーが発生する。
4682434	環境変数の取得に失敗した CGI スクリプトが実行に失敗する。
4682894	クラスタ管理 - ソースサーバーを選択すると、ターゲットサーバーが選択解除される。
4684775	非同期 DNS がデフォルトで無効になっている。
4707989	Web-app/JSP: JSP ファイルで load-on-startup が機能しない。
4704385	クラスタ: リセット後すぐに「OK」をクリックすると、クラスタの変更時に NULL メッセージが表示される。
4705181	ユーザーとグループで、ユーザーを検査せず、CGI では空白文字が受け入れられる。
4705204	削除を選択しても、新規に追加した ACL ファイルが削除されない。
4706063	Chroot および Directory が正しく検査されない。
4711353	管理者: 「Global SNMP Master Trap Warning」に「Form Element Missing:manager?」が表示される。
4718914	証明書をインストールしなくても、任意のインスタンスサーバーでセキュリティーがオンになる。
4724503	GUI の「Edit listen socket」で IPv6 を有効にすると、サーバーが起動しない。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4727597	ポートが重複した新規サーバーを追加すると、管理 GUI の表示が乱れる。
4721021	SSL 対応サーバーで、絶対 URI にアクセスできない。
4727444	アクセスログで、間違ったデータがレポートされる。
4732877	urlhosts フィールドに複数のホスト名を使用できない。
4745314	VSCLASS の Docroot にある \$id 変数が Microsoft Windows では機能しない。
4749239	ACLI: ACL の処理が正しくない。
4753601	magnus.conf の MaxRqHeader 指令が、想定どおりに動作しない。
4754934	Web Server 6.0 の Vignette NSAPI プラグインが、HTTP 1.1 の使用時は正しく機能しない。
4761188	<p>LDAP: ACL の LDAP ダイナミックグループパフォーマンスの向上。</p> <p>パフォーマンス上の理由から、新たな LDAP 設定パラメータ「dyngroups fast」が SP2 で導入されました。この設定を使用すると、Web Server がグループメンバーシップに関してアサーションを行い、ダイナミックグループ間でネストされた個人をバイパスします。</p> <p>たとえばユーザー「alpha」がグループ「a」に属していて、グループ「a」はグループ「b」の memberURL 定義(ダイナミックグループ)によってグループ「b」のメンバーであるとし、また、ユーザーの ACL には、グループ「b」へのアクセスだけが付与されているとし、このとき、Web Server は「alpha」からのアクセスを拒否します。「alpha」はグループ「b」のメンバーでないと見なされているためです。</p> <p>このような場合にネストされたグループをサポートする場合は、LDAP 認証サービスで、新規設定を定義しないでください。結果的に、パフォーマンスを向上することができなくなります。設定の例: directory:</p> <pre>ldapregular ldap://localhost:389/o=TestCentral ldapregular: dyngroups fast</pre>
4763653	ドキュメント設定ページのフォーム要素に検査が必要。
4764307	Magnus.conf: パフォーマンス設定: -ve 数値を受け付ける。
4765709	管理者: 「Configure Directory Service」で、バインド DN とパスワードを検査しない。
4770294	Microsoft Windows 上の Web Server 6 で、アクセスログの行末に CR 文字を追加しない。
4786612	Web Server で、「:」をホスト名または IP とポートの区切り文字として扱う箇所がある。「:」が IPv6 アドレスの一部に使用されるときに認識されるように、このコードを更新する必要がある。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4787310	SmallFileSpace の値が小さく設定されると、NSFC での占有開放に失敗する。
4788075	Web Server 6.0 SP5 で、magnus.conf の PATH 変数の設定が機能しない。
4800173	多くの仮想サーバーと連動する大きな ACL ファイルでのパフォーマンスの問題。
4808402	ネイティブオーセンティケータのサポート。
4814097	GUI のプログラムグループで、プログラム項目として「none」を選択できない。
4822720	キープアライブサブシステムが動的に調整されない。 キープアライブサブシステムでは、パフォーマンスを最適化するための調整が必要です。Web Server 6.0 では、このサブシステムが高負荷にあわせて調整されていたため、同時に発生したキープアライブ接続が多くないときは、パフォーマンスが良くありませんでした。Web Server 6.1 SP2 ではキープアライブサブシステムが変更され、実際の負荷にあわせて動的に調整されるようになりました。
4849907	実行権が設定されず、構成されていないのに、shtml が構文解析されてしまう。
4855807	AIX: watchdog による再起動後に、Web Server がハングする。
4858152	移行されたインスタンスの server.xml ファイルのアクセスログエントリが、無効なパスを示す。
4869527	SNMP: RH Linux 6.2/7.2/Adv Server 2.1 および Sun Linux 5 で、プロトテスト番号 3 が失敗する。
4862498	新規のディレクトリサービス画面がインタフェースに接続されない。
4870613	Netscape 7 のフレームで「戻る」ボタンが動作しない。
4873766	要求がチャンクされてしまい、upload-file が正しく機能しない。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4882838	<p>生成されたリダイレクトで、URL のプロトコルを指定できない。</p> <p>サーバーは、クライアントにリダイレクトを送信するときは、自己参照 URL を生成します。Web Server 6.1 SP1 以降では、サーバーの生成した自己参照 URL で使用されるスキーマの設定で、server.xml 内の LS 要素の servername 属性が使用されます。</p> <p>たとえば SSL オフローダーがインターネットと Web Server インスタンスの間に配置されていて、このオフローダーが www.sun.com に対する SSL 暗号化されたトラフィックを復元し、Web Server のポート 8080 にリレーしているとします。このとき、以下のような LS 要素が server.xml に含まれています。</p> <pre><LS remap="ls1" port="8080" security="disabled"... servername="https://www.sun.com"/></pre> <p>servername 値の「https://」プレフィックスは、LS が SSL トラフィックを処理するように設定されていない場合でも、自己参照 URL で https スキームを使用するようにサーバーに指示しています。</p>
4889081	内部ログローテーションで、空のログが作成される。
4894033	dist-admin: 管理者 ACL の機能「Allow only from host/ip」がドキュメント単位でない。
4896881	Web Server の一部を untar すると、所有者およびグループの情報が正しくない。
4897074	Linux のみ: コレクションを作成したとき、PDF ファイルのインデックスが作成されず、コレクションに追加されない。
4899105	「edit virtual server」で接続値の強調表示が正しくない。
4905175	WebDAV ACL 設定が、新しい仮想サーバーに継承される。
4909378	WebDAV 編集の「Help」ボタンが、正しいヘルプページを指していない。
4903449	マルチプロセスモードで 1 スレッドしかない場合に、パフォーマンスが影響を受ける。
4905681	<p>AsyncDNS 設定が、Sun Java System Web Server 6.1 において無視される。Web Server は、非同期 DNS 検索を実行しない。</p> <p>magnus.conf で AsyncDNS がオンであっても、非同期 DNS はオフのままです。</p>
4908631	実行していないサーバーを停止させようとする、エラーメッセージ状態が返される。
4907288	クラスタ管理ファイルの転送が Microsoft Windows で機能しない。
4909678	Web Server 6.1 ダイジェスト認証が、フラットファイルには機能しない。
4910266	Web Server 6.1: GUI でダイジェストファイルユーザーを作成すると、指数関数的にユーザーが増える。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4904088	移行の最後のページで、「<」および「>」文字を html エンコードする必要がある。
4908986	JDBC: blob サンプル: サーブレットコード UploadServlet が SQL 例外で誤った処理を行う。
4904896	i18n 検索: 検索管理 GUI 上の「Default Encoding」のエンコーディングリストのソート。
4908010	適用を行う前に、新しく作成された VS の検索コレクションを削除できない。
4908401	i18n: 検索結果のドキュメントのタイムスタンプがローカライズされていない。
4910222	バックスラッシュを含むドキュメントルートを持つコレクションを作成しようとすると、Microsoft Windows 上でエラーが発生する。 回避策: この問題は、バックスラッシュを含む、またはスラッシュとバックスラッシュが混在したドキュメントルートを指定した場合に発生します。スラッシュを使用してください。
4911548	重複する検索コレクションを作成すると、サーバーが ConfigException を返す。
4911656	I18N: マルチバイト文字の検索で、「日付順に表示」リンクに移動できない。
4913909	i18n: ハングル文字のファイル名を使用したファイルを追加すると、読み取り権がないためスキップされ、エラーになる。
4913228	jdbcRealm サンプルアプリケーションの Oracle スクリプトで、引用符がない。
4910869	NSFC の拡張が必要。 ReplaceFiles nsfc.conf 指令を追加します。 ReplaceFiles=true (デフォルト) の場合、既存のファイルキャッシュの動作が維持されます。 ReplaceFiles=false の場合、ファイルがキャッシュされると、そのファイルキャッシュエントリは、別のファイル用にキャッシュを空けるために破棄されなくなります。ヒットリストのロックで、競合を避けることができるため、ベンチマークシナリオで便利です。
4910272	新規サーバーの追加中に、ドキュメントルートでスラッシュの混在をサーバーが受け入れてはいけない。
4912254	.env 内の「set -o noclobber」が原因で、Web Server のインストールが失敗する。
4911070	Web Server 6.1: 「Add listen socket」の「protocol family」フィールドが、IPv6 アドレスに存在しない。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4911630	Magnus Editor のフィールドの多くが検査を行わず、負の整数値を受け入れてしまう。
4911550	追加ドキュメントでサーバーにアクセスしようとする時、ServletException が発生する。
4911633	ユーザーの「Change Password」が機能しない。
4913566	「URL Forwarding Editing」ページに矛盾がある。
4919473	管理 GUI から「Security Realm」プロパティを更新しても、server.xml に反映されない。
4913289	「Edit Virtual Class」のヘルプで、VS クラスを削除するときの条件がすべて示されていない。
4916331	キーアライブ接続が軽負荷でもハングすることがある。
4925475	server.xml の createconsole 属性が無視される。
4925938	ユーザーが VS 管理 URL を誤って編集してしまうと、Null Pointer 例外が発生する。
4929848	パフォーマンス: Web Server が kstat を 1 秒に 1 回ポーリングする。
4926414	i18n-ko: 既存のドキュメントが 1 つ以上失われている場合に、コレクションのインデックスを再作成するとハングする。
4935797	certmap.conf ファイルの場所の表記が誤っている。
4930327	MOVE/COPY 要求で、destination ヘッダーが URL エンコードされない。
4933483	SIGCHLD シグナルが起動時にレポートされる。
4935582	AF_NCA で TCP_NODELAY を設定する必要はない。
4930642	ファイルの mime.types エントリがキャリッジリターンで終わっていない場合は、ソースが返される。
4930329	maxpropdepth のデフォルト値が間違っていて選択されている。
4932995	管理 GUI から Web アプリケーションを削除すると、先頭の「/」が取り除かれてしまう。
4935420	移行後の 6.1 インスタンスで、制限アクセスのリソースピッカーがエラーになる。
4944850	Web Server 4.1 から 6.1 への移行で、アドレス指令が正しく移行されない。
4946829	管理者: 移行後に新規仮想サーバーを作成すると、「\$user: unable to find value」が発生する。
4941027	Sun Web Server の Web 管理インタフェースでのクロスサイトスクリプティング。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4948397	Web Server 6.1 SP1 の SNMP が機能しない。
4946187	dist-admin: 「Allow Authenticated Users」: dist-admin を有効にした後、ACL を「allow authenticated user」だけに設定しても、サーバーは管理者グループ内のほかのユーザーへのアクセスを許可する。
4947005	Solaris x86 で「Add server instance」が機能しない。
4940040	管理者の「Configuration File Reference」で、存在しない TYPE 要素を定義している。
4942750	検索の例が間違っている。
4943631	スレッドプール設定ファイルの説明が間違っている。
4941741	Solaris 8 上の Web Server 6.1 SP1 サーバーで、libCld.so が原因で起動に失敗する。
4945994	fc_net_write が単一システムコールにならない。
4940418	バイトコードの計測のためのサードパーティ製プロファイラのサポート。
4943329	IWSSessionManager が、Web Server 6.1 では期待通りに動作しない。
4947065	検索 Web アプリケーションで、最大でも 11 コレクションしか表示されない。
4947624	Microsoft Windows でインデックスの再作成をすると、意味のない警告メッセージが表示される。
4950552	特定の出力結果で、間違った番号が付けられる (11、21、31...)。
4954789	ClassCastException で Web Server の配備に失敗する。
4956415	Web Server 6.1 検索: meta タグの description を表示できるように要求される。
4950644	Linux で重複コレクションを作成すると、意味のない警告メッセージが表示される。
4951860	httpagt が NETSITE_ROOT 変数に依存する。
4957158	x86 ビルドの specweb99 を実行すると、fc_open が失敗する。
4952492	MOVE メソッドが、可能なときにファイル名を「rename」しない。
4958571	PR_NetAddrToString のパフォーマンスが想定以下である。
4951264	Java でトリガーされた再設定とサーバーのシャットダウン中に、サーバーがクラッシュする。
4958755	ServletContext.getContext(String) をルートコンテキストから呼び出すと、ほかのコンテキストを返さない。ルートコンテキストだけが返される。
4950653	QoS の vsclass 値に「Null」が表示される。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4951982	不正なクレデンシャルを使用して LDAP を設定すると、「Invalid error」メッセージが表示される。
4953147	管理者ユーザーが root で、インスタンスが root でない場合、cron ベースのログローテーションが失敗する。 回避策: scheduler.conf ファイルで、管理サーバーユーザーと同じユーザーに変更してください。
4961864	rotate-callback を使用すると、Web Server がハングする。
4962059	setup.inf に管理者のパスワードがプレーンテキストで格納される。
4969637	send-error SAF に、軽微のコードディングエラー。
4961999	VS の追加後、上部フレームのドロップダウンボックスに VS が表示されない。
4962624	管理者: 「Edit Listen socket」のプロトコルの値を検査しない。
4963483	スラッシュ (/) を含む ACL ファイルパスを作成しようとする、GUI が乱れる。
4968422	WebDAV 画面で、ブラウザに「invalid ACL file」と表示される。
4966497	「Average Queueing Delay」の「Perf Dump」データが正しくない。
4970955	Apache サンプル (\plugins\java\samples\webapps\simple) のクロスサイトセキュリティの問題。
4972573	Web Server 6.1 SP1 の、Webapps-Simple サンプルアプリケーションで不正な動作。
4972587	i18n サンプルアプリケーションの index.html で指示が誤っている。
4976454	Web Server 6.1 に同梱のサンプル。
4970273	FastCGI ベータライブラリが RTM Web Server パッケージに含まれている。
4976953	AIX 6.0 SP6: 適切なグループアクセス権があるファイルで、GET 操作の禁止エラーが発生する。
4976490	ログメッセージが切り捨てられる。
4975675	サーバーのロード中は、動的再構成に失敗する。
4976910	エントリが存在しないと、NSFC_GetEntryPrivateData() が NSFC_GetEntryPrivateData() を呼び出す。
4973079	GUI で、使用されなくなった無効なポートエントリが保持され続け、「servername」フィールドの検査に失敗すると、そのエントリの値が使用される。
4975788	Internet Explorer を使用して編集した classpath が壊れ、サーバーの JVM が起動できない。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4975798	Web 管理を使用して、classpath サフィックスにパスを追加できない。
4975782	外部 JNDI 参照を削除できない。
4970188	RPM がシステムの umask を特定できない。
4971298	JES で Web Server パッケージの pkgchk -n が失敗する。
4986761	Web Server 6.0 の移行に失敗する。
4989231	Linux プラットフォームでサーバーが起動に失敗する。ビルド中の JDK パスが間違っている。
4988104	「Edit virtual servers」 ページで、接続の値が正しく更新されない。
4986700	サブレットフィルタを使用すると、Last-modified および Etag が抑制される。
4991888	キーファイル設定で間違ったファイル名が格納される。
4992739	classpath サフィックスを変更すると、Web Server のインスタンスを開始できない。
4995447	Web Server 6.1 SP2 (Red Hat Linux) で、管理 GUI にアクセスできず、ログイン後にエラーメッセージが表示される。
4995489	Solaris x86: 分散管理を有効にできない。
4991775	Cookie のサンプルサブレットでの Cookie 名検査。
5002905	分散管理が有効でなくても、「Super User Access Control」を設定できない。
5012107	不正なプラグインを使用すると、POST 要求の本文が 2 回コンシュームされる。
4962659	検索条件が 100 文字に切り捨てられる。
4967580	検索で、SSL 対応インスタンスのハイパーリンクが間違っている。
4970181	Stellent フィルタを Linux および Solaris x86 ビルドに追加する必要がある。
4975327	nova 検索の indexMetatags が自動的に設定されない。
4975367	meta タグのインデックス作成で大文字小文字が区別されない。
4997149	** パターンでドキュメントを削除しても、excludeExtensions プロパティが設定されていると、削除されないファイルがある。
4997178	excludeExtensions が設定されていると、.sxx ファイルのインデックス作成中にサーバーが NULL ポインタ例外を返す。
4997697	検索結果ページで、ページ番号が正しく表示されない。
4844616	dbswitch が正しく設定されていないため、クラッシュする。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4854698	誤った形式の要求によるプラグインクラッシュ。
4866965	ACLI: 失敗した認証が、サーバーのエラーログファイルに 2 回記録される。
4880864	ACL: ACL でアクセスを拒否していると、Web Server が 404 Not found エラーを返す。
4915326	WEBC: signedBy アクセス権を jar ファイルに付与できない。
4918754	Web Server 6.1 で、8 ビット文字セットの HTTP URL GET パラメータを処理できない。
4924921	Microsoft Windows 2000 で JDK 1.3.1 を使用している場合、JVM の最大ヒープサイズを 800M バイトに設定できない。
4926336	jsp:param の値で % を使用すると、クエリ文字列が破損する。
4927770	libjvm 内からの SIGABRT でサーバーが異常終了する。
4928358	JSP エラーが、Not Found エラーとして誤ってレポートされる。
4930374	sun-web.xml 内の class-loader 要素で extra-class-path 属性が想定どおりに動作しない。
4932893	動的再ロードが、Web アプリケーション記述子ファイル (web.xml など) には機能しない。
4939370	Web コンテナのスレッド名が一意ではない。
4934083	LDAP: LDAP 認証中にクラッシュする。
4934562	WEBC: スタンドアロンの JSP では getRemoteUser() が動作しない。
4935669	WEBC: クライアントの証明書データが要求に含まれるとは限らない。
4935570	証明書データが利用できる場合でも存在しないことがある。
4932547	Tomcat AuthenticatorBase が 403 でなく 500 を返す。
4946762	Out-of-box のデフォルトレルムがネイティブでない。
4948123	Web Server 6.1 が、特定の状況で、クライアントのキーサイズを正しくレポートしない。
4949842	WEBC: コア認証を使用すると、isUserInRole() が一致しない。
4957829	LDAP: 基本認証で、UID にワイルドカード「*」を使用できる。
4960013	LDAP レルムを複数設定できない。
4968857	htconvert で .nsconfig のワイルドカードパターンを正しく変換しない。
4968882	6.1 形式の server.xml で htconvert が機能しない。
4960873	セッションが 2 つのスレッドで同時に期限切れになると NPE が発生する。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4973927	EPIPE シグナルが OutputStream.write() の IOException として捕えられない。
4976277	LDAP プールに JDK 1.4.1 付属の JNDI 接続プールを使用する。
4983707	ログレベルを「Security」に変更すると、st で NullPointerException が発生する。
4981028	web.xml の「distributable」セマンティクスを Web コンテナが受け入れない。
4993468	getResourcePaths が、「//」を含むパスを返す。
4996219	RedHat Linux Advance Server 3.0 で webservd がメモリーリークする。
4997593	NSAPI の srvhdrs と HttpServletResponse ヘッダーの間の統合に問題がある。
4997756	LOCK-UNLOCK が正しく動作せず、UI はロック情報を正しく表示しない。
4997838	「Security」をオンにすると、RHL AS 3.0 で Web Server が起動しない。
5003531	SS ではない transport-guarantee=CONFIDENTIAL のとき、Web アプリケーションにアクセスすると 500 エラー。
5004542	ASN.1 構文解析バグ / brute forcer プログラムで Web Server がクラッシュすることがある。
5016494	NSS: 証明書が破損していると、DER_UTCTimeToTime でクラッシュする。

6.1 SP1 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題を一覧表示します。

表 7 Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題

バグ ID	説明
5060906	<p>インデックスファイルのない保護されていないディレクトリに対して、承認ダイアログボックスがポップアップする。</p> <p>追加情報:6.1 SP1 では、ディレクトリに index.html、index.jsp、home.html などのインデックスファイルがないと、ACL 認証が有効な場合に、このディレクトリが保護されていなくても、読み取りおよび書き込み権限を持つすべてのユーザーがリストへのアクセスを拒否されます。</p> <p>回避策: 6.1 の以前の動作に戻すには、匿名ユーザーにリスト権限が許可されるように、デフォルトの ACL を変更します。次のように変更します。</p> <pre>allow (read, execute, info, list) user = "anyone"</pre>

表 7 Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4642650	<p>サーブレットまたは JSP コンテナに絶対 URL を追加できないようにするオプションが必要。</p> <p>修正の詳細: sun-web.xml に新しいプロパティが追加されました: relativeRedirectAllowed</p> <p>デフォルト値: false</p> <p>説明: true の場合、HttpServletResponse.sendRedirect() API を使用して Web アプリケーションが相対 URL をクライアントに送信できるようになります (つまり、コンテナが相対 URL を完全指定 URL に変換しないようにする)。</p>
4793938	<p>Server Manager の GUI から遠隔ファイル操作を有効にすると、すべての遠隔ユーザーがサーバーの URI 領域にあるディレクトリのリストを取得できるようになる。</p>
4904201	<p>付属以外の JDK が存在するサーバーを追加したとき、javahome パスが誤って設定される。</p>
4911580	<p>新しいサーバーインスタンスを追加すると、問題が発生し、サーバーエラーメッセージが表示される場合がある。</p>
4928794	<p>PUT によって NULL のリソースを作成しようとするとサーバーが再起動する。</p>
4929913	<p>検索エンジンによって PDF ファイルの FTS 情報が抽出およびインデックス作成されない。</p> <p>修正の詳細:この修正は、Linux 以外のサポートされたすべてのプラットフォームに適用されます。</p> <p>Author、Subject、Keywords という meta タグには常にインデックスが作成されます。PDF ファイルの FTS_* 属性を変換したときに作成される meta タグも含め、任意の meta タグのインデックスを作成できるようにする機能が追加されました。server.xml において、新しい設定を次のように手動で構成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ server.xml の SEARCH セクションに、name="indexMetatags" と設定された PROPERTY を追加します。値をコンマで区切られた meta タグ名のリストにする必要があります (Author、Subject、Keywords という meta タグは、この設定に関係なく常にインデックス作成される)。 ■ PDF およびその他のドキュメントを変換して作成される meta タグにインデックスを作成するには、この構成で、特定のドキュメントタイプの「フィールド」名ではなく、meta タグ名を使用する必要があります。たとえば、PDF ファイルの FTS_Title コンテンツにインデックスを作成するには、次のように "Title" を "indexMetatags" 設定のコンポーネントにする必要があります。 <pre data-bbox="678 1625 1295 1650"><PROPERTY name="indexMetatags" value="Title"/></pre> <p>注 - 検索結果にカスタム meta タグ情報を表示する方法の詳細は、52 ページの「検索」の節にあるバグ ID 4956415 を参照してください。</p>

表 7 Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4933935	Solaris 9: パッケージベースのインストールで <code>reconfig</code> が機能しない。
4945089	SSL での ASN.1 解析問題 Web Server で使用される SSL プロトコルの実装において識別された問題で、サービス拒否攻撃の対象になる可能性があります。この問題は Sun Java System Web Server 6.1 SP1 で修正されています。Web Server を使用して SSL バージョン 3 または TLS を使用するサイトをホストする場合は、このサービスパックのインストールを強くお勧めします。
4950388	<code>reconfig</code> コマンドが Microsoft Windows XP で機能しない。
4964069	Microsoft Windows プラットフォーム上で <code>commit.exe</code> ユーティリティがクラッシュする。

6.1 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 において解決された問題を一覧表示します。

表 8 Sun Java System Web Server 6.1 において解決された問題

バグ ID	説明
4869693	Microsoft Windows において、Web Server のインストールでは、Directory Server 5.x との共存問題のために Sun™ONE Directory Server .d11 ファイルを上書きする。
4540254	ログファイルのローテーションによって UNIX 上のサーバーの再起動が必要となるべきではない。
4727146	ログが「connection reset」 エントリで満たされている。
4786735	インストーラが、外部 JDK を使用時に適切な JDK CLASSPATH/LIBPATH を設定しない。
4792721	LDAP サーバーがオフラインのときに間違ったエラーメッセージ。
4799452	<code>sun.tools.javac.Main</code> が廃止されているため、例外によって有効な JSP が停止する。
4801874	<code>ACL_LDAPSessionAllocate</code> が常に <code>LAS_EVAL_FAIL</code> を返す。
4811418	ダイジェスト認証がクラッシュする。
4819405	<code>digestauth</code> プラグインによる <code>slapd</code> プロセスのメモリー増大およびリールク。
4820513	<code>digestauth</code> プラグインコードがスレッドセーフでない。

表 8 Sun Java System Web Server 6.1 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4839875	ClassCache およびドキュメントルートとして cachefs/nfs を使用したときに、Sun Java System Web Server が新しい JSP を使用するとは限らない。
4842190	Web サーバーが、15 を超える言語の Accept-Language ヘッダーを受信するとクラッシュする。
4842574	誤った形式の要求によるサーバークラッシュ。
4842601	Accept-Language ヘッダーのセキュリティー問題。
4846832	CRL がデータベースを破壊する。
4848896	digestauth プラグインが、特定の種類の要求によりクラッシュする。
4849914	特定の種類の要求による digestauth プラグインでのメモリーリーク。
4855546	ログアナライザの脆弱性。
4858026	JSP: 大量のデータをポストしたとき、getParameter でクラッシュする。
4867887	ユーザー ID に空白が含まれているユーザーの基本認証が失敗する。
4903319	コレクションを作成したとき、すべてのドキュメントのインデックスが作成されて、コレクションに追加されるとは限らない。

既知の問題

この節では、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 がリリースされた時点での非常に重要な既知の問題および制限を一覧表示します。問題をカテゴリごとに記述します。

- 39 ページの「一般」
- 40 ページの「管理」
- 43 ページの「コア」
- 44 ページの「マニュアルとオンラインヘルプ」
- 50 ページの「インストール」
- 50 ページの「移行」
- 51 ページの「サンプル」
- 52 ページの「検索」
- 53 ページの「セキュリティー」
- 54 ページの「ツール」
- 55 ページの「Web コンテナ」
- 55 ページの「WebDAV」

一般

次の表に、一般的な既知の問題を示します。

表 9 一般的な既知の問題

バグ ID	説明
6301761	JES4_b8: ブラウザの非互換性 - WS 6.1 SP5 での mozilla 1.4 / firefox 1.0.6 の問題。
6198559	JES3: Linux での Web Server のパッチアップグレードで、誤った「アンインストール」通知がスローされる。

管理

次の表は、管理における既知の問題を一覧したものです。

表 10 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6197731	<p>管理サーバーにアクセスするときに発生する内部エラー。</p> <p>回避策: Directory Server (バージョン 5.2 パッチ 3 以前) がインストールされている Microsoft Windows マシンに Web Server 6.1 SP4 をインストールすると、Web Server 管理サーバーの問題点に直面することがあります。そのような問題を回避するためには、Web Server と Directory Server を別々のマシンにインストールすることをお勧めします。この問題は、Microsoft Windows プラットフォームでのみ発生します。</p>
6021151	<p>HttpServerAdmin を使用して JNDI リソースを作成する際、LDAP DN にコマが含まれていると問題が発生する。</p> <p>回避策: HttpServerAdmin でプロパティ内の「,」をエスケープするには、エスケープ文字として「\」を使用します (Microsoft Windows プラットフォームでは「\」を使用する)。</p> <p>プロパティ</p> <pre>java.naming.provider.url=ldap://localhost:389/ou=loggingQueues, ou=tms,ou=services,ou=abc</pre> <p>で、「,」は次に示すようにエスケープします。</p> <pre>-property java.naming.provider.url=ldap://localhost:389/ou=loggingQueues \\,ou=tms\\,ou=services\\,ou=abc</pre>
5007892	<p>dist-admin: ACL を削除してもオブジェクトが消去されない。</p> <p>回避策: https-admserv の NameTrans をコメントアウトします。</p> <pre>#NameTrans fn="assign-name" name="https-admserv" from="/https-admserv/*"</pre>
5035129	RHLAS 3.0 上で WS 6.1 SP2 Admin を使用して、DS ユーザー / グループ / ou を管理できない。

表 10 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4650456	マルチバイト文字を使用すると、「View Access」および「View Error」が正しく機能しない。
4652585	分散管理を有効にすると、ローカルの管理ユーザーが無効になる。 回避策: 分散管理のグループ内に、デフォルトの管理ユーザー名でユーザーを作成します。 新規に作成した LDAP 管理ユーザーには、Web Server の管理ユーザーと同じパスワードを設定する必要があります。
4725683	ログファイルの日付スタンプが、ローカルのタイムゾーンになっていないため、正しくない日付が表示される。 回避策: ログファイル名の拡張子の日付をログエントリ自体の日付にする場合は、1 日の終わりである 23:59 でログファイルがローテーションするようにサーバーを設定します。
4761960	バージョン 6.0 SP4 で、SASL および匿名バインドを使用すると、分散管理を有効にできない。 回避策: SSL 対応のディレクトリサーバーに匿名バインドを使用しないでください。
4841310	.htaccess で認証すると、REMOTE_USER 変数を取得できない。 回避策: .htaccess ファイルを使用可能にすると、サーバーはリソースを提供する前に、.htaccess ファイルを確認します。サーバーはリソースと同じディレクトリおよびそのディレクトリの親ディレクトリで .htaccess ファイルを検索します。この検索はドキュメントのルートまで続けられます。たとえば「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されているときに、クライアントが /sun/server/docs/reports/index.html を要求すると、サーバーは /sun/server/docs/reports/.htaccess および /sun/server/docs/.htaccess を確認します。 サーバーの「Additional Document Directories」および「CGI Directory」機能で、管理者は代替のドキュメントルートを定義できます。代替のドキュメントルートが存在すると、.htaccess ファイルの処理に影響します。たとえば、サーバーで「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されていて、CGI プログラムが /sun/server/docs/cgi-bin/program.cgi にあるとします。CGI を「File Type」として有効にした場合、クライアントが CGI プログラムに要求を発行すると、サーバーは /sun/server/docs/.htaccess と /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess の両方の内容を評価します。しかし、「CGI Directory」として /sun/server/docs/cgi-bin を設定すると、サーバーは /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess は検査しますが、/sun/server/docs/.htaccess は検査しません。これは、「CGI Directory」で /sun/server/docs/cgi-bin を指定したことで、代替のドキュメントルートとしてマークされたためです。
4865295	管理インタフェースの分散管理下で、エンドユーザー管理機能がサポートされない。

表 10 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4882999	管理 GUI のページの見た目と使い心地に一貫性がない。
4888696	Netscape 7.0 で情報の入力が必要な場合に、管理 GUI の「Add Server」ページが消える。 回避策: 「OK」をクリックする前に「Add Server」ページに完全な情報を入力してください。必要であれば、「Add Server」の GUI を復元するためにページを再読み込みするか、別のページまたは別のタブをクリックして、「Add Server」ページに戻ってください。このバグは、Netscape 7.0 でのみ発生します。
4910309	「NULL」が警告メッセージで正しく表示されない。 これは、Virtual Server Manager の「Virtual Server」ページの Pick Directory でディレクトリサービスを編集しているときに表示されます。
4905808	スーパーユーザーが、分散管理を有効にしたあと、管理インタフェースにアクセスできない。 回避策: 分散管理を有効にしたあと、「スーパーユーザー」と同じ管理ユーザー名とパスワードを持つ LDAP のユーザーを作成します。
4908694	ログ設定用のデフォルトのリンクが動作しない。 「Virtual Server」ページ用の「Logging Settings」でデフォルトリンクがデフォルトのパスを設定せず、リセットボタンとして動作します。
4910197	JDBC リソースを編集するとき、プロパティページの値が、削除後も保持される。
4911552	.shtml ファイルが、構文解析されるべきでないときに構文解析される。 この問題は、Class Manager の「Content Management」タブの「Parse HTML」ページに関連しています。.shtml ファイルは、このページの設定を構文解析しないように設定した場合でも構文解析されます。たとえば、「Yes, with exec tag」および「All HTML files」を指定しただけでも、.shtml ファイルの構文解析が行われます。
ID なし	Web Server に付属の sun-web.xml ファイルで間違った DTD の場所が示されている。 修正: 正しい場所は http://www.sun.com/software/dtd/webserver/sun-web-app_2_3-1.dtd です。
6284698	root ユーザーでないユーザーとしてインストールすると、Web Server が動作しない。 回避策: Web 管理コンソールを使用せずに、コマンド行から Web Server インスタンスを起動します。

表 10 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6078104	<p>パススループラグインが設定されている場合に、WS6.1 から JSP アプリケーションにアクセスできない。</p> <p>回避策: パススルーの service 指令から、次のように行を変更します。</p> <p>変更前:</p> <pre>Service type="magnus-internal/passthrough" fn="service-passthrough" servers="http://server:port "</pre> <p>変更後:</p> <pre>Service fn="service-passthrough" servers="http://server:port "</pre>
4841310	<p>.htaccess で認証すると、REMOTE_USER 変数を取得できない。</p> <p>回避策: .htaccess ファイルを使用可能にすると、サーバーはリソースを提供する前に、.htaccess ファイルを確認します。サーバーはリソースと同じディレクトリおよびそのディレクトリの親ディレクトリで .htaccess ファイルを検索します。この検索はドキュメントのルートまで続けられます。たとえば「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されているときに、クライアントが /sun/server/docs/reports/index.html を要求すると、サーバーは /sun/server/docs/reports/.htaccess および /sun/server/docs/.htaccess で .htaccess ファイルを確認します。</p> <p>サーバーの「Additional Document Directories」および「CGI Directory」機能で、管理者は代わりにドキュメントルートを定義できます。代わりにドキュメントルートが存在すると、.htaccess ファイルの処理に影響します。たとえば、サーバーの「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されていて、CGI プログラムが /sun/server/docs/cgi-bin/program.cgi にあるとします。CGI を「File Type」として有効にした場合、クライアントが CGI プログラムに要求を発行すると、サーバーは /sun/server/docs/.htaccess と /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess の両方の内容を評価します。しかし、「CGI Directory」として /sun/server/docs/cgi-bin/を設定すると、サーバーは /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess は検査しますが、/sun/server/docs/.htaccess は検査しません。これは、「CGI Directory」で /sun/server/docs/cgi-bin/を指定したことで、代替のドキュメントルートとしてマークされたためです。</p>
4991278	JSP クラスキャッシュファイルを削除するための管理 GUI 機能がない。
6316262	管理 GUI はアクセスログパスの変更を反映しない。
6316265	管理 GUI では、変更を有効にするために「Click Apply」と指示されているが、Admin Server に「Apply」ボタンはない。

コア

次の表に、コアにおける既知の問題を示します。

表 11 コアにおける既知の問題

バグ ID	説明
4939491	HP-UX: ./stop スクリプトを実行するとエラーメッセージが表示されてプロセスグループが終了する。

マニュアルとオンラインヘルプ

次の表は、マニュアルとオンラインヘルプにおける既知の問題を一覧したものです。

表 12 マニュアルにおける既知の問題

バグ ID	説明
4964908	機能のアップグレードに関するマニュアルがない。
5065188 6173274	『管理者ガイド』の「詳細検索」の節では、「検索」メニューの「通過検索」オプションについて誤って説明している。このメニューオプションは利用できません。
6155266	『管理者ガイド』の設定ログレベルの説明が誤っている。 修正:Web Server の設定レベルは、次のように定義する必要があります。 メッセージは設定が正しくないことを示します。
6206074	『Administrator's Configuration File Reference』の ChildRestartCallback 指令のデフォルト値の説明が誤っている。 修正:デフォルト値は no directive です。
6170766	『インストールおよび移行ガイド』の「Sun ONE Web Server インストールの前に」の節で、Web Server の新しいバージョンへのアップグレード方法の説明が誤っている。 修正:Sun Java Enterprise System 1 に含まれる Sun One Web Server 6.1 をアップグレードするには、patchadd を使用する必要があります。
6170769	『Administrator's Configuration File Reference』の AdminLanguage 指令に関する情報が誤っている。 修正:AdminLanguage 指令は、ログメッセージに表示される言語にのみ適用され、GUI には適用されません。
6173273	『管理者ガイド』の「MIME タイプの選択」の節の下に誤植がある。 修正:この文は次のようにしてください。詳細については、オンラインヘルプの「MIME Types」ページおよび管理者ガイドの「仮想サーバーの使用」を参照してください。

表 12 マニュアルにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6173133	<p>『NSAPI Programmer’s Guide』の NSAPI 関数リファレンスの例が誤っている。</p> <p>修正:例は次のようにしてください。</p> <pre>FilterMethods methods = FILTER_METHOD_INITIALIZED;</pre>
6173272	<p>『管理者ガイド』では、サポートされる Java のバージョンを「1.4.1_03」と誤って記述している。</p> <p>修正:Sun Java System Web Server は、Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) 1.4.2_04 以降をサポートしています (32 ビットのみ。64 ビットはサポートしていない)。J2SE ソフトウェアは Web Server に付属しており、選択すれば、Web Server のインストール中にインストールされます。</p> <p>Web Server のインストール後に、独自の JDK をインストールすることもできます。管理サーバーの使用を計画している場合は、JDK をインストールする必要があります。</p>
5016571	<p>Generic Thread Pools の下の「オンラインヘルプ」ページの情報が誤っています。</p>
5029460	<p>『管理者ガイド』には、誤った certmap.conf の設定が記述されている。</p> <p>このガイドの certmap.conf の説明には、次のように書かれています。</p> <p>最初の行にはエントリの名前と、CA 証明書内に記載されている識別名を設定する属性を指定します。名前は任意です。好きな名前に定義できます。ただし、issuerDN は、そのクライアント証明書を発行した CA の発行者 DN と正確に一致している必要があります。たとえば、次の 2 つの issuerDN 行は、属性間に空白文字があるかどうかという点が異なるだけですが、サーバーは、これら 2 つのエントリを別のものとして取り扱います。</p> <pre>certmap sun1 ou=Sun Certificate Authority,o=Sun, c=US certmap sun2 ou=Sun Certificate Authority,o=Sun, c=US</pre> <p>修正:この 2 行は、次のようにしてください。</p> <pre>certmap sun1 ou=Sun Certificate Authority,o=Sun, c=US certmap sun2 ou=Sun Certificate Authority, o=Sun, c=US</pre>
5031366	<p>『管理者ガイド』のオンラインバージョンで、正しくないリンクがある。</p>
4968568	<p>『Administrator’s Configuration File Reference』ガイドの ConnQueueSize 指令に関する説明が不明瞭。</p>
4975161	<p>『Administrator’s Configuration File Reference』には、pool-init のオプションのパラメータ「block-size」の記述がない。</p>

表 12 マニュアルにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
5002190	<p>『管理者ガイド』には、htpasswd コマンドユーティリティに関する情報が記述されていない。</p> <p>追加情報:htpasswd コマンドは、htaccess アクセス制御メカニズムでの使用に適したパスワードファイルを生成または変更するために使用します。</p> <p>htpasswd の使用方法:</p> <pre>htpasswd [-c] passwordfile username [password]</pre> <p>-c は新しいパスワードファイルを作成します。</p> <p>上述のとおり、-c は古いパスワードファイルが存在する場合に、それを上書きして新しいパスワードファイルを作成します。-c を付けないと、コマンドはユーザーのパスワードを更新する (ユーザーが既に存在する場合) か、または指定された名前 で新しいユーザーを追加して、既存のファイルを変更します。</p> <p>オプションのパスワード引数を指定しないと、割り当てるパスワードを入力するように求められます。</p> <p>htaccess は Web Server の優先されるアクセス制御メカニズムではありません。できる限り、ACL を使用してください。</p>
5002192	<p>『Administrator's Configuration File Reference』の loglevel 属性に関する情報が誤っている。</p> <p>修正:loglevel の説明は次のようにしてください。</p> <p>他の要素によってエラーログに記録されるメッセージのデフォルトの種類を制御します。使用できる値は、最高から最低まで次のようになります: finest、finer、fine、info、warning、failure、config、security、および catastrophe。</p>
5020640	<p>『NSAPI Programmer's Guide』には %duration% flex-log format 変数についての記述がない。</p>
5029321	<p>『Administrator's Configuration File Reference』の <Client uri="*foo*" uri="*~bar*"> 指令の記述が誤っている。</p> <p>修正:場合によっては、評価で単一の評価文を使用するように書き換えることができます。</p> <pre><Client uri="*foo*~*bar*">.</pre> <p>これは機能上、次と同じです。</p> <pre><Client uri="*foo*" uri="*~bar*">.</pre>
5038534	<p>『Administrator's Configuration File Reference』の LogFlushInterval 指令のデフォルト値が間違っている。</p> <p>修正:LogFlushInterval 指令の正しいデフォルト値は 2 秒です。</p>
5043491	<p>オンラインヘルプの内容が間違っている。</p>

表 12 マニュアルにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4781137	<p>『管理者ガイド』の次の情報が間違っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ このガイドには、libdigest-plugin.ldif が存在するパスが定義されていない。 追加情報: libdigest-plugin.ldif は <server-root>/plugins/digest/libdigest-plugin.ldif にあります。 ■ ダイジェスト認証を処理するように Web Server を設定する (dbswitch.conf のデータベース定義の digestauth プロパティを設定する) 情報が記述されていますが、その実行手順は説明されていません。 ■ libdigest-plugin.so は libdigest-plugin.lib と誤って説明されています。 ■ iplanetReversiblePassword の説明がありません。
4823362	<p>『管理者ガイド』は ACL に関する追加情報で更新する必要がある。</p> <p>追加情報: 一致する ACL が複数ある場合、サーバーは最後に一致した文を使用します。uri ACL が最後に一致する文であるため、デフォルトの ACL は無視されます。</p>
4862795	<p>『管理者ガイド』の「ログファイルの保管」ページの説明が不明瞭。</p> <p>修正: 説明をわかりやすくするため、マニュアルに次の注記を追加します。ユーザーは古いログファイルをアーカイブまたは削除できます (この操作は、Web Server によって実行されない)。</p>
5046588	<p>『インストールおよび移行ガイド』の Sun アクセラレータハードウェアのサポートされるバージョンの記述が誤っている。</p> <p>修正: Sun アクセラレータハードウェアのサポートされるバージョンは、500 および 1000 です。</p>
5052605	<p>『NSAPI Programmer's Guide』では、content-type を小文字にする必要があることが明確に指示されていない。</p>
5053339	<p>オンラインヘルプ — 『管理者ガイド』およびオンラインヘルプに、ディレクトリの索引化に関する情報が無い。</p>

表 12 マニュアルにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
5062560	<p>『インストールおよび移行ガイド』に start-on-boot オプションを無効にする方法が記述されていない。</p> <p>追加情報:ユーザーは次のように、start-on-boot オプションを無効にできます。</p> <p>Solaris および HPUX — webserver01 スクリプトの S1WS_START_ONBOOT 変数を編集して無効にします。</p> <p>[Solaris]</p> <pre data-bbox="565 625 873 653">/etc/init.d/webserver01</pre> <p>[HPUX]</p> <pre data-bbox="565 716 889 743">/sbin/init.d/webserver01</pre> <p>Linux — 次のリンクを削除して無効にします。</p> <pre data-bbox="565 806 971 833">/etc/rc.d/rc3.d/S75webserver01</pre> <pre data-bbox="565 844 971 871">/etc/rc.d/rc5.d/S75webserver01</pre>
6067059	<p>『管理者ガイド』で、コンテンツ本文を含まないタグはすべて、「>」終了タグの前に「/」が必要である。</p>
4928287	<p>すべてのドキュメントで、<instance>/lib ディレクトリが存在しないことを通知していない。</p> <p>追加情報:このディレクトリはインストーラによって作成されません。ディレクトリが存在しない場合、ユーザーが作成する必要があります。</p>
4970961	<p>『Administrator's Configuration File Reference』では、ChunkedRequestTimeout について詳細に説明していない。</p>
6308091	<p>『Administrator's Configuration File Reference』 — ppath のチルドを使用したワイルドカードは、説明の通りに機能しない。</p> <p>修正:ユーザーは次のいずれかを設定する必要があります。</p> <p>設定 1</p> <pre data-bbox="565 1352 1149 1400"><Object ppath="***.gif*"> AddLog fn=flex-log name="access"</Object></pre> <p>設定 2</p> <pre data-bbox="565 1463 1247 1512"><Object ppath="***(.gif .gif/)"> AddLog fn=flex-log name="access" </Object></pre>
6285234	<p>『Administrator's Configuration File Reference』では、StrictHttpHeaders 指令のデフォルト値を on であると誤って説明している。</p> <p>修正: StrictHttpHeaders 指令のデフォルト値は off です。</p>

表 12 マニュアルにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6067318	<p>『Administrator's Configuration File Reference』の <i>set-variable</i> エラーパラメータの情報が不十分。</p> <p>修正: <i>set-variable</i> エラーパラメータの説明は次のようにしてください。</p> <p>HTTP 状態コードを設定し、REQ_ABORTED を返して、要求を中止します。要求を中止せずに、HTTP 状態コードを設定するには、<i>set-variable</i> エラーパラメータと <i>noaction</i> パラメータを使用します。</p> <p>HTTP 状態コードを書き換えるには、<Client> タグを使用して、元の状態コードと照合し、Output 指令を使用して、新しい状態コードを設定します。たとえば、次のコードでは、すべての 302 Moved Temporarily 応答を 301 Moved Permanently 応答に書き換えます。</p> <pre><Client code="302">Output fn="set-variable" error="301 Moved Permanently" noaction="true" </Client></pre>
6281323	<p>『Sun Java System Web Server 6.1 2005Q1 SP4 リリースノート』の Windows 2003 オペレーティングシステムのバージョンの記述が誤っている。</p> <p>修正: Web Server 6.1 SP4 でサポートされる Windows 2003 のバージョンは次の通りです。</p> <p>Windows Server 2003, SP1 Enterprise Edition</p>
6237209	<p>『Sun Java System Web Server 6.1 2004Q3 SP3 リリースノート』には、さまざまな RedHat Linux カーネルに関する情報が不足している。</p>
6237303	<p>『SUN ONE Web Server 6.1 リリースノート』には、Solaris SPARC に必要なパッチで記載されていないものがある。</p> <p>追加情報: Solaris 8 上の Web Server 6.1 には、109326-09 パッチが必要です。</p>
6230379	<p>『Administrator's Configuration File Reference』の <i>remove-file()</i> SAF の記述が誤っている。</p> <p>修正: <i>remove-file()</i> を <i>delete-file()</i> に変更します。</p>
6208955	<p>『NSAPI Programmer's Guide』では SERVER_SOFTWARE を MAGNUS_VERSION_STRING として誤って説明している。</p> <p>修正: SERVER_SOFTWARE の NSAPI 変数は、<i>system_version()</i> です。</p>
4673436	<p>ドメインコントローラ環境内で、iWS にリモート共有を認識させるには。</p>
4841310	<p>.htaccess で認証すると、REMOTE_USER 変数を取得できない。</p>
5059527	<p>Web Server 設定ファイルおよびスクリプトは、<i>webservd</i> で書き込みできる。</p>
6320016	<p>『Administrator's Configuration File Reference』では、Windows での listenQ のデフォルト値について明確に定義していない。</p> <p>修正: Windows での listenQ のデフォルト値は 200 です。</p>

インストール

次の表は、インストールにおける既知の問題を一覧したものです。

表 13 インストールにおける既知の問題

バグ ID	説明
5020317	<p>JDK だけをアップグレードすると、検索が使用できなくなる (ユーザーは例外を受け取り、検索ページは GUI からアクセスできなくなる)。</p> <p>回避策: この例外は、61SP2 コアと一緒にインストールされているか、JDK を単独でインストールする前にインストールされている場合は発生しません。また、JDK をアップグレードした Web Server 6.1 SP1 の上に 61SP2 コアをインストールしている場合も、例外は起きません。</p>
4855263	<p>Sun Java System Web Server は、たとえば Program Files のようにディレクトリ名の中に空白が含まれているディレクトリにインストールされている場合には起動しない。これについてのエラーメッセージは、インストール中には表示されませんが、インストール後にサーバーは起動しません。</p> <p>回避策: Web Server を、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールしないでください。</p>
4869238	<p>Microsoft Windows において、Sun Java System Web Server インストーラが、server_root などのロングネームを受け付けない。</p> <p>回避策: Sun Java System Web Server インストールディレクトリのパス名は、ダイアログボックスでは 256 文字まで入力できますが、128 文字以内で指定してください。</p>
4901205	<p>Solaris で、インストーラの「完全修飾ドメイン名」画面に続く画面 (「ユーザーおよびグループ名」画面から始まる) で、Ctrl + B キーが機能しない。</p> <p>回避策: インストール中、前の画面に戻る必要がある場合は、インストーラを終了して再起動してください。</p>
4937915	<p>AIX: インストール中に Ctrl + C キーを押すと端末画面がハングする。</p> <p>これは、コンピュータ名の画面 (Web Server のインストールされるコンピュータ名を指定するために使用する画面) で発生します。</p>
4960048	<p>Sun Java System Web Server 6.1 SP1 にアップグレードするときに、SNMP 関連ファイルがいくつか上書きされる。</p> <p>回避策: アップグレードの前に次のファイルをバックアップしてください。</p> <pre>\$server-root/plugins/snmp/ magt/CONFIG</pre> <pre>\$server-root/plugins/snmp/ sagt/CONFIG</pre>

移行

次の表は、移行における既知の問題を一覧したものです。

表 14 移行における既知の問題

バグ ID	説明
4790457	<p>移行したサーバーのドキュメントルートを 4.1 から変更できない。</p> <p>回避策: 移行したインスタンスの obj.conf および server.xml を手動で編集します。これらのファイルは <code><code><SERVER_ROOT>/<HTTPS-INSTANCE>/config</code> ディレクトリの下にあります。</p> <p>obj.conf で、次の行を変更します。</p> <pre>NameTrans fn=document-root root="<existing_doc_root>"</pre> <p>変更後</p> <pre>NameTrans fn=document-root root="\$docroot"</pre> <p>server.xml で関連する VSCLASS 下の次の行を変更します。</p> <pre><PROPERTY name="docroot" value="<existing_doc_root>"/></pre> <p>変更後</p> <pre><PROPERTY name="docroot" value="<new_doc_root>"/></pre>
6213097	<p>ktsearch.jar が Sun Java Enterprise System 3 (JES3) で正しく移行されない。</p> <p>回避策: 正しいパスを指すように、移行されるインスタンスの server.xml ファイルを手動で編集します。</p> <p>Linux の場合: /opt/sun/private/share/lib/ktsearch.jar Solaris Sparc の場合: /usr/share/lib/ktsearch.jar</p>
5007081	<p>web-apps ファイルの状態が 6.0 から 6.1 に移行中に無視される</p> <p>server.xml 内で、ファイルレベルで定義された web-apps の状態は移行されません。ユーザーが web-apps ファイルの状態をオフにして切り替えると、移行時にこれらのアプリケーションが公開されます。</p> <p>回避策: 移行されるインスタンスの server.xml ファイルを編集し、各 web-apps の状態をオフにします。</p>
4988156	<p>既存のインストールへの SP_2 パッチをインストール (更新)</p> <p>Sun Java Enterprise System (JES) の一部としてインストールした Sun Java System Web Server 6.1 を最新の Service Pack にアップグレードする必要がある場合は、関連するパッチをダウンロードし適用する必要があります。詳細については『JES 3 の移行およびアップグレード』のガイドを参照してください。</p>

サンプル

次の表は、サンプルアプリケーションにおける既知の問題を一覧したものです。サンプルアプリケーションが正しく機能するのを妨げる問題はありません。

表 15 サンプルアプリケーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
5014039	web.xml で、simple の JSP が <distributable> タグのため例外をスローする。 回避策: simple/src ディレクトリ下の web.xml から、<distributable></distributable> タグを削除します。web-app を再配備します。
ID なし	rmi-iiop サンプルで手順が 1 つ抜けている。 「Deploying the Sample Application」セクションで、コマンド “ant deploy” (手順 2) の実行後、Web Server インスタンスを再起動します。 注: 「ant」は Java ベースのビルドツールで、Apache (http://ant.apache.org) からダウンロードする必要があります。 <install_root>/plugins/java/samples/docs/ant.html の情報も参照してください。
ID なし	jdbcrealm サンプルの Oracle ドライバ名が誤っている。 「Compiling and Assembling the Sample Application」の節、手順 2b で、次の行をその下の記述に変更します。 <pre><PROPERTY name="dbdrivername" value="oracle.jdbc.pool.OracleDataSource"/></pre> 変更後 <pre><PROPERTY name="dbdrivername" value="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"/></pre>

検索

次の表は、検索における既知の問題を一覧したものです。

表 16 検索における既知の問題

バグ ID	説明
4977315	6.1 の AIX 検索エンジンには、ソート順序を変更する機能がない。
5038203	回避策: デフォルトの順序を変更するには、ソート文字列の先頭に「+」を追加します。URL 内の「+」はエスケープされるため、「%2B」を使用して順序を変更します。この場合、URL を次のように変更します。 <code>http://host/search/index.jsp?si=1&ns;=10&c;=test&qt;=*&sb;=%2Bwriter</code>

表 16 検索における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4684124	<p>すでにインデックス作成済みのコレクションのドキュメントルートを変更した場合、検索で返されるドキュメントは「Document Not Found」エラーをスローする。</p> <p>回避策: コレクション全体を再構築します。</p> <p>手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべてのドキュメントを削除し、もう一度追加します。 または、 ■ コレクションを削除し、もう一度追加します。
4911725	<p>大文字と小文字の異なるパターンを使用して、単語を検索した場合に、検索が機能しない。</p> <p>大文字と小文字の混在した単語 (たとえば、java または JAVA の代わりに jaVa と入力) を検索した場合、検索結果は検索ページに表示されません。</p>
4963236	<p>HP-UX: 検索コレクションに含めるための PDF ファイルから HTML への変換ができない。</p> <p>この問題は、HP-UX 11i システムに次のパッチがインストールされると発生します。</p> <p>PHSS_28871 — ld/linker 累積パッチ</p>

セキュリティ

次の表は、セキュリティにおける既知の問題を一覧したものです。

表 17 セキュリティーにおける既知の問題

バグ ID	説明
4898077	<p>SSL が有効な場合、HttpServerAdmin および iWS コンソール間の動作に一貫性がない。</p> <p>回避策: 次の構文を使用します。</p> <pre>HttpServerAdmin create -l -id <id> -ip <ip> -port <port> -sname serverName -defaultvs <defaultvs> [-cert <certificate name>] [-sec <on off>] [-acct <#acctthreads>] -d server_root -sinst http_instance</pre> <p>注: -sec オプションには「true false」、「1 0」、または「yes no」を使用しないでください。代わりに「on off」を使用してください。</p>

表 17 セキュリティーにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4671445	<p>Sun Java System Web Server が、LDAP クライアント認証を要求される場合、SSL を介して LDAP サーバーに接続できない。</p> <p>Sun Java System Web Server がクライアント認証を必要とする LDAP サーバーに接続する (この場合、Web Server はクライアントになる) 場合、Web Server の証明書を送信できず、アクセスが失敗します。</p>
4863599	<p>異なる組織単位の下では同じグループ名を使用できない。</p> <p>同じグループ名が使用されていて、グループ名でアクセスを制限しようとした場合、Sun Java System Web Server は、クライアントがそのサイトにアクセスしようとしたときにエラーを返します。</p> <p>回避策: 各組織単位では異なるグループ名を使用してください。</p>
4963468	<p>環境によっては、「リスト」権限がディレクトリのリスト表示に効力を発揮しない。</p> <p>『Sun Java System Web Server 6.1 管理者ガイド』の第 9 章によると、インデックスファイルを格納していないディレクトリからディレクトリリストを取得するには「リスト」権限が必要です。しかし、特定の環境においては、適切な ACL によってリスト権限が拒否された場合でも、ディレクトリのリストを取得できます。このため、ディレクトリの索引化を制限する必要がある場合は、リスト権限を拒否する代わりに (またはこれに追加して)、『Sun Java System Web Server 6.1 管理者ガイド』の第 16 章に説明されているように、索引化を無効にすることをお勧めします。</p>
6310956 6298215	<p>LDAP が時間切れ (LDAP にタイムアウトが設定されているなど) のため接続をドロップすると、Web Server は LDAP への接続を再初期化できない。この現象は、Web Server が JES3/JES4 インストールの一部としてインストールされている場合にのみ発生し、スタンドアロン (ファイルベース) インストールでは発生しません。</p> <p>回避策:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web Server のファイルベースのインストールからライブラリ libldap50.so をコピーし、現在のセットアップの次の場所に貼り付けます。 /opt/SUNWwbsvr/bin/https/lib 2. Web Server を再起動します。

ツール

次の表は、ツールにおける既知の問題を一覧したものです。

表 18 ツールにおける既知の問題

バグ ID	説明
4905696	Microsoft Windows では、ファイル名を含めたクラスファイルの深さが 255 文字を越えた場合、配備は失敗する。
4912181	Linux では、wdeploy コマンド行ユーティリティーを使用してアプリケーションを配備したとき、NULL ポインタ例外がスローされる。これは、配備の終了時に、配備が成功した場合のみ発生する。 回避策: エラーは、配備に続いて reconfigure スクリプトの実行後、wdeploy が stdout/stderr を読み込むときに発生しているように見えます。再設定は、完了する必要がありますが、再設定メッセージのエラーログを調べて、サーバーが実際に再設定を行なったかどうか確認する必要があります。メッセージがそこになかった場合、手動で reconfigure スクリプトを実行してください。

Web コンテナ

次の表に、Web コンテナにおける既知の問題を示します。

表 19 Web コンテナにおける既知の問題

バグ ID	説明
4903162	url-patterns での大文字と小文字の使用に関連した Microsoft Windows の問題。 サープレットの仕様ごとに、web.xml の url-pattern 要素は大文字と小文字が区別されて扱われます。これによって Microsoft Windows ではユーザーの予期しない動作が発生する場合があります (たとえば、クライアントが index.html と一致するものと考えて index.HTML を要求した場合など)。

WebDAV

次の表は、WebDAV における既知の問題を一覧したものです。

表 20 WebDAV における既知の問題

バグ ID	説明
4892017	<p>親ディレクトリが排他的にロックされた場合、リソースの名前を変更、またはリソースの移動ができない。</p> <p>これは、DAV クライアントが誤った If : ヘッダーを送信するとき発生します。たとえば、Macromedia Dreamweaver または DAV Explorer を使用して Web Server に接続し、コレクションを作成して、コレクションを無限の深さでロックする (すべてのリソースもロックする) 場合、リソースの名前を変更、またはリソースを削除できません。Adobe® GoLive® は、ロックの owner href が auth_user と一致する場合に、正しい If : ヘッダーを送信します。それ以外の場合には、GoLive でも、誤ったヘッダーも送信されます。</p>
4902651	<p>Virtual Server Manager の「Lock Management」画面が、ハードリンク用のロック情報を適切に表示しない。</p> <p>シンボリックリンク (ハードおよびソフト) は、Sun Java System Web Server の WebDAV 実装ではサポートされません。</p>

お問い合わせ先

Sun Java System Web Server 6.1 SP5 の使用にあたって問題が発生した場合は、以下のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- Sun ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- メンテナンス契約に対応した電話番号

できるだけ適切に問題に対処するために、お問い合わせの際には以下の情報をお知らせください。

- 問題の詳細な内容 (発生状況や業務への影響の度合など)
- マシンのタイプ、OS のバージョン、および製品のバージョン (問題に関連している可能性のあるパッチやその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための詳細な手順
- エラーログおよびコアダンプ

ご意見、ご要望の送付先

Sun ではマニュアルの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。Sun へのご意見は、<http://docs.sun.com/> にある「コメントの送信」リンクを使用してお送りください。

ご意見をお送りいただく場合は、マニュアルの Part No. やタイトル名などの識別情報もあわせてご記入ください。

その他の Sun のリソース

Sun Java Systems の有用な情報は、以下の場所から入手できます。

- Sun Java System Web Server 6.1 および Service Pack のマニュアル
- Sun ソフトウェア製品およびサービス <http://www.sun.com/software>
- Sun 開発者向け情報 <http://developers.sun.com/>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://developers.sun.com/prodtech/support/>
- ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/support/software/>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://www.sun.com/supporttraining>
- Sun コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjssservicesuite.html>

